

平成 25 年度 第 5 回市民参加推進会議（会議録概要）

開催日時	平成 25 年 11 月 13 日（水） 午後 3 時 00 分から午後 5 時 25 分まで
開催場所	白井市役所 3 階会議室 2
出席者	委員 吉井信行会長、池川悟副会長、坂野喜隆委員、上坂千昭委員 林章委員、谷本滋宣委員、土山勝實委員、野崎恒昭委員 事務局 市民活動支援課 川上課長、元田主査補、五十畑主事 欠席者 小林茂委員、加藤重雄委員 傍聴者 1 名
議題	1. 市民参加条例の実施の際に求める水準について
資料	1. 市民参加条例の実施の際に求める水準について

【開 会】

【会長あいさつ】

- 寒くなったが、みなさんの熱気で活発な議論をいただきたい。今回の議題は意見交換と
はいうものの、市民参加推進会議を中心とした審議会の基本になる部分である。みなさ
んの意見を聞きながら、今後の指標づくりに役立てたいと思う。
- 今回の会議の主たる目的は、この中で結論を出すことではなく、市に受け止めてもら
うことにある。ぜひ、皆様方からは、本日の議題に沿った内容で、日頃にもまして、活発
に意見をいただきたい。
- 議論については、ある程度順番に議論をした方がよい意見がでると思うので、事務局か
ら説明をいただきたい。

【議 題】

議題 1 市民参加条例の実施の際に求める水準について

- 次回の会議をもって、3 年間の任期を終えるところである。この 2 年は、対象事業が非
常に多かったことから、委員からはいろいろな意見が出てきたが、特に課題となったの
が、市民参加の機会自体は拡大したものの、実際の運用に至っては、市の考え方と市民
が求めるところにズレがあるところであった。
- 今回、委員のそれぞれも任期も終えることもあり、これらの意見について委員経験も多
い市民参加推進会議の委員が感じる市民の意見の集大成として整理するとともに、答申
とともに市になげかけることで、今後、市民の意見をもとにして「具体的なわかりやす
い市民参加の実施方法の手引き」の作成を促すものである。
- また、今後、市が職員に対して作成する手引きをより、具体化するために、今回議論
いただく内容として、方向性の議論とともに、具体的な人数や事例を踏まえた意見をい
ただくこととした。
- なお、会議の運営については、事務局が資料に基づき、それぞれの観点について、趣旨・
要旨を説明した後に、各委員が意見を順番に述べることとなった。
- 意見については、会長のあいさつのおりあくまでも委員の意見を述べ合うこととし、
まとめることを行っていない。

【事務局説明：審議会について】

- 公募委員については、この市民参加推進会議では長らく委員から少ないという指摘がなされている。しかし、市もよりよい審議を行うために委員構成を検討しているところであり、その差は依然として埋まっていない。
- 今まで、一律で審議会委員の増員を求めていたところであるが、審議会の性格（専門的な議論が必要な会議、市民意見を必要とする会議）ごとに、公募委員の割合という形として、〇%程度が望ましいという意見をそれぞれに求めていきたい。
- また、今後の評価にあたっては、どのような場合は、市民参加推進会議の委員として減点されるのかということについても、この3年間で各委員が言及した事例を列挙したので、併せて検討をいただきたい。
- 公募委員について、事務局から、いかがですか？と声をかけることはできるが、選定は公正に行う必要がある以上、選外の可能性もある状態ではなかなか声をかけづらいため欠員が生じることがある。
- 公募委員が欠けた場合は、PRが難しい。広報でPRが一般的であるが、広報は、1月以上前に原稿を作成する必要があるので、欠けたとわかった時点で新たに原稿を作成しても、時間の都合で開催ギリギリとなってしまふ。また、公募終了後に声掛けすると、公募委員でありながら任意性が強くなり、誤解を招く可能性があることから、結果として、欠員が生じたときに新たに委員を探すことが困難となっている。
- 無作為抽出に基づく招待制については、市の市民の年齢や性別の人口構成と同様となるように無作為抽出した構成に対して招待するもので、結果的に参加者が市の年齢や性別の構成と同様になるわけではない。

【事務局説明：意見交換会・ワークショップ】

- 今までの事例だと、複数回開催の場合の会場は、市役所で複数実施する場合と、地域ごとに実施している場合がある。市民はどのような開催方法が参加しやすいか。

【事務局説明：アンケート】

- 回収率について意見が多く寄せられていたことから、回収率についてどの程度の回収率であれば、適切であるのかについて意見をいただきたい。

【事務局説明：パブリックコメントについて】

- パブリックコメントについては、従来から委員の中で評価が分かれるにも関わらず、その意見を一本化することを行っていなかった。
- また、市民にとっても、資料を読み込んだうえで、文書で提出となると、中々意見を言いださづらいうところも指摘されているところであるが、具体的な手立てについて触れてこなかったところである。
- 今回議論いただきたい内容として、どのようなパブリックコメントであれば、市民にとってわかりやすいのかについて意見をいただきたい。
- また、パブリックコメントの意見が寄せられない場合、意見の求め方が悪かったため意見がなかったのか、適切な内容であったため特に意見がなかったのかの判断が分かれる

ところである。今回は、どのような形で意見を募集していたら行政として適切に実施したといえるのか。ということについても意見をいただきたい。

【委員の主な意見】※委員の個々の主な意見については、別表参照

- 審議会の公募委員の数について
(10人の審議会委員の構成のうち何人が公募委員であることが望ましいか)
市政における市民感覚を大切にする審議会 5人程度
技術的・専門的な議論が中心となる審議会 3人程度
利用者など対象となる人が限られた問題で市民の意見を求める審議会 5人程度
※利害関係者と純然たる市民のバランスが必要
※委員の総数、委員構成にもよるが、最小の人数として3人は必要
- 委員全体の数は、意見がわかれたときに参考とできるので、奇数構成が望ましい。
- 充て職を増やすか、減らすかというのも、委員のコストでは大きな問題がある。
- 市民の意見は公募だけで構成されるわけではない。自治会などの団体推薦も地についた議論では、市民の感覚を大切にする会議では、必要ではないか。
- 利害関係者が限られた事業であっても、広い視点で考えれば市が関与しているということは、市民にとって利益があるということである。利害関係が生じる市民の意見を聞くことはもちろん大切であるが、利害関係の生じない市民の意見も聞く必要がある。
- 専門家が入る中で議論をするので、利害関係者だけの意見を聞くことは良くない。
- 公募委員が欠けているということは、当初想定した適切な委員構成ではないということであるから、公募委員が欠けないように事務局は努力をするべきである。
- 公募委員が欠けるのは、審議会の審議内容に魅力がないのか、担当者の会議の設定が悪かったため、応募したいのに応募できないのか、募集の周知の期間、方法が悪かったのか判断は必要
- 公募の時に、時間帯や土日開催などの工夫する必要がある。ただし、欠員している場合は、やはり当初の構成を外れているので、設計として完璧な審議会とは言えないのではないか。
- 女性の参加という観点については、国のいうように管理職の30%を女性にしろというのは反対であるが、声を聴くということについては、生活者の実感としての市民の感覚であれば良いので、属性を大切にすべきであるため、やはり、男性だけの審議会ではなく、女性がいた方が良い。ただし、応募者に女性がいないというのであれば、いたしかたない。
- 興味がない人が参加しても意味がないので、属性だけに固執してはいけないと思う。
- 事務局の努力は必要であるが、男性だけ、女性だけという審議会があってもいたしかたないと思う。結果として、多様な属性があればなお良いという考え方ではないか。
- 事務局からは、無作為抽出が市の人口構成と同じようにならないという話があったが、事務局の資料からは少なくとも自薦よりも属性に近づいていることが明らかとなっている。このことから、絶対に無作為抽出を推進した方が良い。
- また、参加しない市民もいると思うが、参加しない市民に対しても意見を聞く方が良い。これが結果として、白井市の市民参加を高めることとなると思う。

- 無作為抽出の市民を公募委員とする際には、関心分野の区分などがあると、市民の側としても参加しやすいし、また審議会の委員としても適切な委員を選任できるのではないか。
- 自薦の委員は、意欲的であり、また自ら応募したことから積極的である。自薦の委員も必要である。
- 他市（茨城県龍ヶ崎市）の事例であるが、20人程度の審議会で、17人程度が公募委員であり、その内訳は自薦が2名、残りが無作為抽出に基づく招待制である。その審議会は、自薦委員はやる気があるし、良く知っているから、発言も多い。無作為抽出の人は、最初はおとなしく発言も少ないが、影響を受けて、審議会の終盤では、非常に発言も増えて結果として良い審議会であった。このことから、委員の数という観点が重要なのではないか。
- 自薦の方が意欲的ではあるが、無作為抽出による招待制で来た方を意欲的にさせる取り組みこそ必要なのではないか。
- 無作為抽出で期待しているのは、子育て世代、特に女性の専業主婦である。このような招待というチャンスがあれば、家庭の理解も得やすいので参加しやすいのではないか。
- 一回でも市政に参加すると、市の状況についての理解度が高まる。基本的には未経験者が参加することはいいと思うが、そのように理解度が高まった市民をそのままにしておくのは勿体ないと思うので、同じ審議会では論外であるが、他の委員会などの委員選考で不利にならないといいと思う。
- パブリックコメントで、今までは図書館を活用していなかったが、最近は活用した事例が多い。図書館は物事を調べるのに適切であるし、余裕がある時に来る場所なので、図書館を活用した方が良いのではないか。
- アンケートの回収率は、モニターなどの対象者を絞ったアンケートの場合 60～63%程度が良いアンケートであるといわれているが、市民を無作為に選んだ場合、その数字に行くのは非常に難しく、一般的には半分を回収できれば良いとされている。また、調査項目や記述が多い・少ないなどのアンケートの内容にもよるところがあるので、回収率だけを一概に言うことは困難である。ただし、白井市の東京からの距離を考えると、50%を超えた回収率であれば、集まったアンケートと言えるのではないか。

まとめ：市民参加に求める水準とは

【事務局説明：情報提供の時期について】

- 市民参加の大前提として、市民への情報提供が挙げられ、市民からも市から事業に関する情報をもっとわかりやすく提供して欲しいという意見が多い。
- 市民として、情報を提供して欲しいのは、事業を実施する前の事業の概要か。それとも事業を実施している最中の情報か。

【事務局説明：市民参加で求める意見について】

- 市が市民に市政への参加を求める際に重視すべきことは、性別や年齢、居住区域などの多様な属性の市民が参加することが望ましいのか、それとも市民が参加することで、様々な意見が生じることを優先すべきか。

【事務局説明：市民参加の数の拡大と機会の拡充について】

- 市民参加については、審議会などに参加する市民の数が拡大することを目的とするべきか、審議会やパブリックコメントの開催などが様々な事業で行われ、市政に市民が参加する機会が拡大されることを目的とするべきか。

A 委員

- 実施中の情報提供が大切。実施中に情報が入れば、より良いものになる可能性がある。
- 多様な意見が必要。現実論か未来論かということとなると思う。現実からいえば、募集しても人が来ないなど参加の属性の拡大は難しい。
- 機会の拡大が必要。

B 委員

- 簡単で良いからどちらでも情報提供が必要であるが、どちらかといえば実施前の情報である。関心があるものは、問い合わせができるため。
- 多様な意見はより良いものに集約されることから、どちらかというところ、多様な属性の市民の参加が必要。
- 市民参加は現状維持で良いと思う。市民参加の拡大では、市民参加の人数が増えることは良いが、コストがかかるのは問題があるので、現状で良いと思う。また機会の拡大については、審議会が増えることに結果としてなるので、コストがかかるので、現状が良いのではないかな。

C 委員

- 実施前と実施中両方での情報提供があった方が、より多くの市民の理解と協力が得られると思う。
- 老若男女の参加が望ましいことから、多様な属性の参加が望ましい。
- 機会の拡大がされることで、市民全体の参加意識の拡大が図れる。

D 委員

- 本来は、実施前・中・後それぞれ必要であると考えます。
- 最良の意見という観点から考えると、多様な意見というのはそれほどあるわけではないので、多様な市民の属性が必要であると考えます。
- 参加する、しないは本人の自由であるので、参加する機会を与えるという観点から、参加の機会の拡大が必要

E 委員（書面提出）

- 実施前の情報があれば、実施中の情報も追跡ができる。
- 在来とニュータウンのように多様な属性の参加が必要であるが、多様な意見も必要である。自薦では多様な属性の参加というのは期待できない。
- 市民参加の機会の拡大

F 委員

- 実施前、実施中、いずれの情報も必要
- 多様な属性の市民の参加が望ましい。
- 市民参加の機会の拡大が望ましい。

G 委員

- 実施前、実施中いずれも大切
- 多様な属性の市民が必要。例えば、白井市ではこれから高齢化が進展するが、その際に、高齢化について年寄だけの意見で動かないことが市として重要
- いろいろな人がたくさん市政に参加できることが良いと考えることから、市民参加の数が拡大した方が良い。

H 委員

- 市民が欲しい情報といった際に、市民がどういう状態、レベルにあるかによっても違ってくと思う。
- 市民全体で白井の政策形成、例えば計画を作る際に事前に知っておきたいという考えであれば、実施前の情報が必要であるし、計画策定にあたり、専門家に任せたいという考えで、自分の生活に関係のあるところに関与したいという考えに立てば、実施中の情報が必要であると思う。
- ただし、ここにいる委員のような人々であれば、実施前の情報が必要であると考えられるであろうし、多くの市民は、もしかしたら実施中の情報だけあれば良いのかもしれない。
- いろいろな人がいれば、いろいろな声がかかるので、多様な意見がということになるのだが、まずは人、多様な属性の参加が必要であると考え。
- チャンスを増やす方が良いという観点から機会の拡大が必要であると考え。

会長

- 強いて言えばとなるが、実施前の情報が必要である。
- 多様な人が来れば、多様な意見も出ることが期待できることから多様な属性の市民の参加が望ましい。本音をいえば、どちらかではなく、どちらも必要であると考え。
- 市民参加の機会の拡大が必要であると考え。

会長（まとめ）

- 今回は、あくまでも論点について、議論し、委員で意見を述べたところである。これをそのまま事務局に届けるので、市として活用いただければ幸いである。

事務局

- 事務局としては、この意見をもとに、市職員に対して、事業を実施する際の注意点として紹介する予定である。職員向けには具体的な方がわかりやすいと思う。
- 最後の会議にはその概要を示すので、答申案とともに議論いただきたいと思う。次回の会議は、年明けに委員と日程調整のうえ開催したい。 [第5回会議終了 17:25]

項目	内容	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員
1. 公募委員について	①市民の感覚を大切にする委員	5人以上	会議は奇数が原則 3人以上	3人+団体推薦 客観的な人も必要	5人以上	6人以上	7人以上	4人以上	6人以上	5人以上
	②専門内容の委員	3人以上	3人以上	1人以上	3人以上	3人以上	4人以上	4人以上	4人以上	3人以上
	③対象となる人が一部の人に限られた事例の委員	5人以上	3人以上	3人以上	6人以上 ターゲットを絞る	6人以上 うち対象者4人	6人以上 うち対象者4人	4人以上 うち対象者2人 我田引水的な議論ばかりではだめ	6人以上 うち対象者3人	5人以上
	④公募委員の欠員	望ましくない 募集方法が悪く応募 しないこともあると思 う	望ましくない 努力する	問題なし ただし文書で勧告	望ましくない 何とか補充する	少し望ましくない	少し望ましくない	望ましくない	望ましくない	望ましくない
	⑤男性だけの委員	問題なし ただし、女性が入り にくくなる募集は避 ける	問題なし	望ましくないできない	女性を1人は確保す る	問題なし	少し望ましくない 多様性のため女性 の比率上昇は必要	問題なし 女性は1人はいた方 がよい	望ましくない 女性への啓発も必 要	問題なし
2. 公募委員の選出方法	①自薦と無作為抽出の優先度	自薦 やる気重視	半々が良い	内容により	自薦 自薦は意欲的	自薦 自薦は意欲的	無作為抽出 出てこない人の意見も	無作為抽出	無作為抽出 不足分を自薦	自薦 積極性を重視
3. 会議の開催について	①平日昼間の開催	問題なし	問題なし 委員が決めれば良 い	問題なし	望ましくない 昼間は無職者対象	問題なし 昼間でもOK	問題なし 基本は昼間	問題なし	問題なし	問題なし
	②休日の開催	問題なし	問題なし 委員が決めれば良 い	問題なし 審議会の性格により 開催時間を決定 ものにより望ましく ない	多くの委員の参加が ある可能性大	問題なし 休日は負担になる	問題なし 休日までやる必要 なし	問題なし 夜・休日だからいい わけではない	問題なし	問題なし
	③傍聴者がいない	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし 関心のない人は来 ない	問題なし 興味がないと来 ない	少し望ましくない	問題なし	問題なし 傍聴いる場合加点	問題なし
	④参加率が低い場合	問題なし 他の人に頑張っても らう	望ましくない	問題なし	望ましくない 半数以下では無意 味	少し望ましくない 委員選任の見極め が悪い	望ましくない (評価できない)	問題なし 委員の自覚の問題 無作為だと特に	望ましくない	問題なし
4. 選考基準	①未経験・熟知者	半々でよい	未経験者	半々でいい 経験者は他の審議 会に参加できるよう にしたほうがよい	基本的に熟知者	半々でいい	経験少ない人を優先 熟知者優先しなくて よい	半々でいい	区別する必要はない が、案件により決定	バランスを取るべき
5. 会議録	①逐語訳・要約	要約	要約	逐語訳 要約はホームページ に掲載	要約 興味あれば問合せ	要約	要約	要約	要約	要約 内容に応じて
6. パブリックコメント	①設置場所 (図書館/各センター)	両方必要	両方必要	両方必要	両方 ホームページ	両方必要	図書館不要	両方必要	両方必要	両方必要 自治会長にお願い
	②募集期間	14日	14日	14日	14日 内容で決定	14日	21日(14日は短い)	14日	14日	14日
	③応募意見 適切な募集で応募なし	問題なし	望ましくない 設定に問題あり	問題なし 市民の問題であるた め	応募がないのは市と 市民の考えのずれ	問題なし	少し望ましくない	問題なし	望ましくない 応募がないと困る	問題なし
	④応募意見 公募内容とかけ離れた意見	問題なし	望ましくない 説明不足	基本的に問題なし ケースに応じていか に適切に対応するか	望ましくない 質問の仕方が悪い	問題なし	少し望ましくない	問題なし	望ましくない	望ましくないあり
7. アンケート	回収率	-	-	50あれば及第	学校関係80%以上	-	-	-	-	-
8. 意見交換会 ワークショップについて	市役所等同一の場所のみでの開催	各地域ごとに行う方 がよい。ただし、市役 所は1回以上必要	市役所のみはよく ない。各センターで 地域ごとに。	内容や対象者により 変更する	市役所は駐車場が あるため市役所が良 い	各センター利用の方 がよい	意見交換会を重視	市役所だけでは難し く地域ごとに考えて いく方がよい	全体で考えるなら市 役所で地域で考える ならセンター	各センターで地域ご とに
9. その他	実施前の情報と実施後の情報	実施前	実施中	ケース・状況による	実施前	両方必要	実施前	両方必要	実施前・中・後の3回	両方必要
	多様な市民の参加と多様な意見	多様な市民の参加	多様な意見	本来は多様な意見 まずは市民の参加	多様な意見	多様な市民の参加	多様な市民の参加	両方必要	多様な市民の参加	多様な市民の参加
	市民参加の拡充と機会の拡充	機会の拡充	機会の拡充	機会の拡充	機会の拡充	機会の拡充	現状で充分	市民参加の拡充	機会の拡充	機会の拡充